

新型コロナウイルスの影響により、延期となっていた第19回町民ミュージカル「戦国富田城」が、5月2日にいよいよ公演されます。約20年続く町民ミュージカルは、その名のとおり町民参加型のミュージカル。演劇経験の有無を問わず、町内から参加者を募集し、練習を重ねてきました。

この町民ミュージカルに、2003年の第3回公演から出演し続けているのが検本毅（けんもとつよし）さんです。普段はひょうきんで、ちょっぴり個性的な方ですが、ひとたび舞台上に立つと、通りの良い声、豊かな表情で観客を引き込みます。

「本番の舞台の上は、自分は何をやってもいいんだ！という開放感で気持ちいい。普段抑えている自分が出せるんですね」

そんな検本さんは、町民ミュージカルに参加するまで演劇経験はなく、生の舞台を見たこともほとんどなかったそうです。



「アニメが好きで、よくキャラクターのセリフを暗唱していたんです。それを見た父親が、町民ミュージカルに出てみたらと声をかけてくれました」

当時はコンビニのアルバイトをする以外、家に引きこもりがちだったという検本さん。しかし、ミュージカルに参加し始めてから生活は

に



町民ミュージカル出演者 検本毅さん

いま新富町のこの人が気になる

#012 今月の新富人

インタビュー：二川智南美

1978年生まれ。新富町出身。第3回町民ミュージカルに初参加して以来、次の第19回まで毎年、町民ミュージカルに出演し続けている。株式会社ネオキャリアのBPO宮崎センター勤務。趣味はアニメやゲーム、一番好きな作品は「銀河英雄伝説」。



大きく変わりました。

「楽しみも義務感もあるから、しっかりと取り組み、生活にメリハリが生まれしました。墮落する自分の尻を叩いてくれるのが、町民ミュージカルなんです」

以来、町民ミュージカル一筋18年。経験

年数が長くなるにつれ、重要な役も数多くこなしてきました。「今の町民ミュージカルの礎を作り、演技指導をしてくださった寺原重次先生が一線を退き、迷走した時期もあった」そうですが、一昨年にプロの演出家を迎え公演された「ヒメたちのものがたり」では、さらに演技が一段上がったと検本さんは語ります。すっかりライフワークとなったミュージカルと仕事を両立させ、充実した日々を過ごしています。

「自分の表現したい意図が観客に伝わって嬉しいのも、想像していなかった反応が返ってきておもしろいのも『舞台は生もの』だからこそ。体が動き続ける限り、出演し続けたいですね！」

最後に、今回の町民ミュージカル「戦国富田城」の魅力について尋ねました。

「舞台は、戦でいつ死んでもおかしくない時代。コロナ禍の現代と通じるものを感じます。悔いのないように生きよう、と思える力を届けられたら嬉しいです」

●町民ミュージカル「戦国富田城」は5月2日(日)13時開場、14時開演。チケットの購入は 圖文化会館 ☎33・6205